

施策評価調書

施策名	3-2-1	ごみ分別の推進	施策を取り巻く環境変化	平成18年度に策定したリサイクル総合計画に基づき、生ごみ、剪定枝、廃食用油、発泡スチロール、ペットボトルなど有効なリサイクルを進めごみの分別を推進してきましたが、年々可燃ごみの排出量に増加傾向が見られます。自治会に加入していない住民の増加もあり、ごみの分別に対する情報不足があります。可燃ごみの削減とリサイクル推進のため、プラスチック容器などのプラスチックの分別回収に取り組み自治体も増えてきました。 平成23年3月11日の東日本大震災により災害廃棄物が大量に発生しました。
		地域経営計画(後期計画) 該当ページ P. 44		
担当部課	住民生活部 環境課	担当 リーダー	環境担当 竹澤 伸一	

1. 住民意識調査結果

21年度(10月実施)		25年度(※実施予定)		26年度(※実施予定)	
満足度	20.8% 第6位/全36項目(リサイクルの推進)	満足度	第 位/全 施策	満足度	第 位/全 施策
優先度	64.5% 第13位/全36項目(リサイクルの推進)	優先度	第 位/全 施策	優先度	第 位/全 施策

満足度:「満足である」、「どちらかと言えば満足である」を合計した割合から、「どちらかと言えば不満である」、「不満である」を合計した割合を差し引いたもの

優先度:「優先すべき」、「やや優先すべき」を合計した割合から、「あまり優先しなくてよい」、「優先しなくてよい」を合計した割合を差し引いたもの

2. 施策の目標

指標	基準値	年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
指標1:リサイクル総合計画の見直し実施	H22年度時点での実績	計画	実施	継続実施			
	未実施	実績					
指標2:町民1人1日当たりの可燃ごみ排出量(15%減):(g)	H21年度実績	計画	329g	319g	303g	293g	283g
	333g	実績					
指標3:プラスチック分別回収の実施	H22年度時点での実績	計画	周知	周知	実施	継続実施	継続実施
	未実施	実績					
指標4:		計画					
		実績					
指標5:		計画					
		実績					
指標に関する特記事項	○指標1:リサイクル総合計画の見直しは、環境基本計画の見直しとあわせて実施します。 ○指標2:町民1人1日当たりの可燃ごみ排出量は、家庭から排出される可燃ごみの排出量で、町内事業所からの可燃ごみは含まれません。						

進捗状況の区分 ↑:目標以上の成果があった →:目標どおりの成果があった ↓:目標に至らなかった △:遅延・未着手等 ×:見直し・廃止等

3. 施策に係る経費

事業費(傘下事務事業費計)の推移【単位:千円】 (※総事業費)	年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
	当初	114,267	113,284			
決算						

4. 施策傘下事務事業 ※別紙のとおり

5. 施策評価

後期計画における施策展開のビジョン		H24年度の狙い
自己評価(部)	H22事後評価 ごみの分別回収によりごみの減量化とリサイクルを進め、分別への意識は定着化していますが、可燃ごみの排出量は増加の傾向にあります。また、東日本大震災の被害により一時的にごみの量は増えています。ごみの減量化に取り組む施策展開が必要です。	塩谷広域環境衛生センターの使用期限は平成24年11月末のため、リサイクル総合計画に基づくごみ分別を継続して実施していくことはもちろんのこと必要に応じた見直しを行い、より一層のごみ分別への取り組み推進と可燃ごみの排出を抑制していきます。 東日本大震災による災害廃棄物の処理事業を優先させたため平成23年度において実施できなかった事業を実施していきます。
	H24事前評価 東日本大震災の影響のため、平成18年度に策定したリサイクル総合計画をごみ処理の現状にあわせて継続して見直しを行いさらなるごみの減量化と資源化を推進します。 可燃ごみの排出量を削減するため、プラスチックの分別に取り組みます。プラスチックの回収は、資源としてリサイクルの有効な手段であり、現在実施している発泡スチロールの回収方法と同様に、拠点回収により町民の理解と協力のもと実施に向けて推進していきます。これまで以上にごみの分別を推進していくことが、資源の有効なリサイクルにつながり、ひいては循環型のまちづくりの実現に寄与	①分別ごみのひとつである生ごみは全量堆肥として活用していますが、有機堆肥(たんくん)との交換制度をつくることにより生ごみの分別をさらに進めます。 ②新たな取り組みとして、これまで可燃ごみとして排出されていたプラスチック類の分別資源化を開始していくための説明会を実施し町民に周知していきます。説明会においては、プラスチックの分別周知とともに、生ごみ・古紙の分別など可燃ごみの減量に向けて周知し、リサイクルへの協力と理解を強力に推進します。
総合評価(町長)	総合評価 分別推進にあたっては、自己評価のとおり、惜しみない周知とPRを徹底して行うことが重要であると考えているので、継続的に取り組まれない。	施策傘下事務事業に係る個別指摘事項 ・「プラスチック回収再資源化事業費」については、全町的に試行実施すべきモデル地区から試行実施すべきかのシミュレーションを予算査定時に提示するという意味合いで、「条件付継続事業」とする。 ・その他の施策傘下事務事業については、「継続事業」とする。 ・団体運営費補助にあつては、引き続き団体との協議を密にし、適切な役割分担、良好な協力関係を構築されたい。